

なく、正和元年（一二三二）十月ごろ、鎌倉から明石盛行・齋藤重行・安富長嗣の三人を奉行として派遣し、強力に執行に当たった。

前ページの表は、豊前国に関係した興行史料である。

これらの法令は、富裕な御家人や凡下（ばんげ）の人々へ甚大な犠牲を強いただけに、社会の矛盾を深め、鎌倉幕府に対する信用を大きく失墜（しうたい）させることになり、悪党といわれる反幕府的、反荘園領主的な行動をなす人々を増大させた。

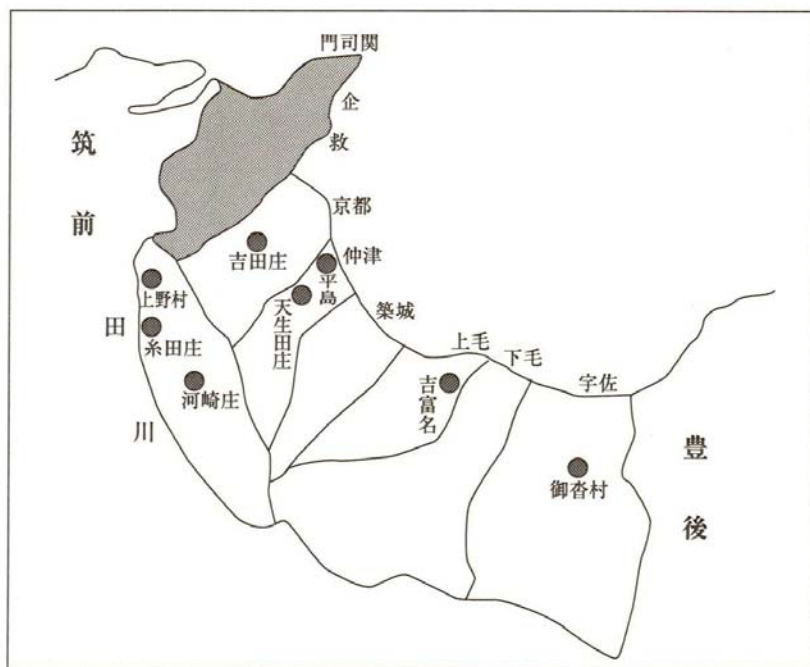
二 北条一門の九州進出

北条氏一門の南向

蒙古襲来を機に、九州の御家人を指揮統率するために、北条氏一族が派遣された。建治元年（一二七五）、北条実政（十七歳、のち鎮西探題）や北条宗頼の南向、弘安五年（一

二八二）の北条時定（為時）の鎮西奉行着任によって、少弐・大友・島津氏が任命されていた前・中・後三国の守護職はしだいに北条氏の手に移り、各国の公領・荘園も、交通の要衝の地を北条氏によって掌握されていった。

豊前国も、北条一族の金沢氏に与えられ、その一族は、豊前国を拠点として、糸田氏・規矩氏を称し、隠然たる勢力を築いていった（第3図参照）。



第3図 豊前国の北条氏所領